

景観まちづくり学習助成事業実施校 学校名 横浜市立永田台小学校

① 学習指導案

プログラム	No.1 1 「地域景観プランナーになろう」
単元名 (全時間)	すごろくワールド～3世代を元気に仲良く大作戦～
学習のねらい	まちの発展や景観づくりのために尽力する地域の人々の存在や思いに気づき、自分達にできることを考え行動したり、行事に参加したり、地域参画意識を高める。
学習内容	1 コロナ禍の今、どんな総合にするか考えよう 2 オリジナルすごろくを作ろう 3 オリジナルすごろくで永田台に住む人に喜んでもらおう 4 心も体も頭も元気に笑顔になれるすごろくを目指そう 5 すごろくワールド～3世代を元気に仲良く大作戦～
参考資料準備 品実施場所等	実施場所：永田台小学校教室

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
5	<p>1 コロナ禍の今、どんな総合にするか考えよう</p> <p>○これまでの学びを振り返るとともに、どのような力をつける1年間にするか話し合う。</p> <p>○自分たち以外の人々の思いを知るために、インタビュー調査などをする必要に気づき、計画を立てる。</p> <p>○まちの人・全校・保護者にインタビューやアンケートを行い、自分たちが目指している活動は本当に必要か話し合う。</p> <p>○すごろく制作をすることでどのようなよさがあるか話し合い、今年の材を決定する。</p>	<p>・事前に地域の人と連絡をとり、困り感取材しておく。その際、子どもたちが社会情勢をリアルな課題として前向きに捉えられるよう、コロナ禍で外に出られないこと、高齢者にとっては人と会えないことは心身の健康に影響を及ぼしていることに触れて話をしてもらう。</p> <p>すごろくの魅力や楽しさにとことん触れられるよう、様々な種類のものと出会えるようにしておく。</p>	<p>☆自分たちが暮らすまちには高齢化が進み、先行き見えない困難な状況の中で人々のつながりが希薄化しているという課題があり、人々をつなげるために努力されている人がまちにいるということや、その方々が思いをもって取り組んでいることを理解している。(概念的な知識の獲得)</p> <p>・「すごろくでまちの人のつながりを創りたい」という目的の実現に向けて地域社会の様子から課題を見出し、解決の見通しをもつことができる。(課題の設定)</p>





10	<p>2オリジナルすごろくを作ろう</p> <p>○既存のすごろくで遊び、そんな内容や絵になっているか、気付いた特徴を共有する。</p> <p>○自分たちでテーマを決めてすごろく制作をし、そこから分かったことを整理・分析する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> • まちについての調査を、目的や対象に応じて適切に行ったり、得た情報を適切に処理して表現したりすることができる。(自在に活用することが可能な技能の獲得)
25	<p>3オリジナルすごろくで永田台に住む人達に喜んでもらおう</p> <p>○テーマを決めて、内容を考え、絵を描く。</p> <p>○編集をし、一つの絵に仕上げる。</p> <p>○地域の方や保護者、学校の人、プロに見てもらい、アドバイスをもらう。</p> <p>○アンケートを読んで問題を整理し、問題の原因や解決の見通しを話し合っ分析する</p>	<p>自分たちの思いだけで創ってしまった内容やデザインである現実から「本当に遊んだ人にとって効果のあるすごろくにする必要がある」という課題に気付かせるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • よりよいすごろくを目指して表現する楽しさやまちの人とふれあう喜びを感じ取り、自分や仲間のよさを生かしながら粘り強く追究しようとする。(主体性・協働性)
30	<p>4心も体も頭も元気に笑顔になれるすごろくを目指そう</p> <p>○どんなテーマや内容にしたら、遊んだ人は元気に笑顔になれるかを話合う。</p> <p>○地域の人とはどんな思いや気持ちで、このまちのために尽力しているのか調査したりインタビューしたりする。</p> <p>○調査やインタビューをした結果をもとに、すごろくに入れたい内容やデザインを再決定する。</p> <p>○テーマや内容に合わせて、表現方法を考える。</p> <p>○クラスで一つの絵に仕上げる。</p>	<p>誰と出会い、どんな思いに触れたらまちへの思いや愛着を深めるきっかけになるか、事前に吟味するようにする。取材対象者と事前にねらいを共有しておく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 人々の思いやまちの魅力を効果的に伝えるために、まちの方々へのインタビュー、すごろくでの表現方法など効率的な手段で情報を集め、適切に蓄積することができる。(情報の収集)

10	<p>5すごろくワールド～3世代を元気に仲良く大作戦～</p> <p>○自分たちの活動のゴールとして誰にどんなことを思ってもらいたいのか、そのために何が出来るか話し合う。</p> <p>○出来上がったすごろくを、協力してくださった地域の方やプロの方、学校の先生に見てもらおうお披露目会を開く。</p> <p>○永田台小学校や地域のサロンですごろくを紹介するイベントを行う。</p> <p>○オリジナルすごろくをまちの人と一緒に作ったり、描いたりしたことでのどのような効果があったのか話し合う。</p>	<p>コロナ禍であっても安全に実施でき、かつ盛大にお披露目できる場を設定し、子どもたちが大いに達成感を味わえるようにする。</p> <p>一年間を丁寧にふり返り、言語化することで、自分の価値観の変容やまちへの参画意識を高められるようにする。</p>	<p>・地域の人が元気に笑顔になれるすごろく制作を通して、まちに役立つことができた自分自身に気づき、地域の一員として地域の中で自分にできることを見つけ、地域の他者と豊かに関わっていかうとする。(将来展望・社会参画)</p>
----	--	--	---

<留意点>

②事業実施報告書詳細

学校名 横浜市立永田台小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
10	学校	様々な既存のすごろくで遊び、地域の魅力が伝わり、喜んでもらえるすごろくを作るためのヒントを探した。		すごろくは無条件に楽しい、おもしろい！ まだ話したことがない人とでもすぐに打ち解けられる！
30	教室	オリジナルすごろくをつくり、地域や保護者の方を呼んで交流会を開催した。楽しいだけで相手のことを知ることができて、健康につながる内容にはなっていないことに気付く。		自分達の作ったすごろくでもらえて嬉しい反面、課題もたくさん出てきた。
10	学校	地域のイベントに参加したり、健康作りを推進している方達に、アドバイスをもらったりした。		専門家の助言により、内容をより意味のアルモノに改善できて、とても充実した学びを創れた。
20	地域の様々な場所	ついに完成！完全オリジナルすごろくで、3世代が元気に、仲良くなれる交流会を開催した。		コロナ禍で忘れかけていたリアルなコミュニケーションの大切さを改めて再認識した。

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>地域の方の思いや魅力にふれ、まちへの愛着を十分に深め、参画意識を高められるようにした。何度もインタビューすることで、自分たちの故郷への思いや、まちの人の温かさを実感できるようにした。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>特になし</p>
<p>(3) 児童の反応</p> <p>思い描いたものが形になっていく中で、喜びが連続していき確かな手ごたえを感じていた。また、高齢者の実態を知ったり困っていることを聞いたりすると、人ごとにならずに課題をと向き合っていた。</p>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <p>最初は、すごろくを楽しく制作する活動だけで深まらないことを懸念をしていた。しかし、子どもと一緒にまちの方にインタビュー活動をしていく中で、子ども達やまちの未来のことを真剣に考え、思い、情熱をもって活動してくれている人がたくさんいることを知り、本当に素敵な地域だと実感した。まちの景観とは、建物や施設、見た目だけではなく、そこに住む人々や思いがこもってこそ、輝いていくのだと私自身も感じました。</p> <p>貴重な一年間でした。ありがとうございました。</p>
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <p>これからもまちの一員として、主体的に参画していけるよう見守っていきたい。また、他の学年の児童にも同じようなまちへの愛着心、参画意識を育て、地域と積極的につながり、参画していける子どもを育てる学校現場でありたい。</p>